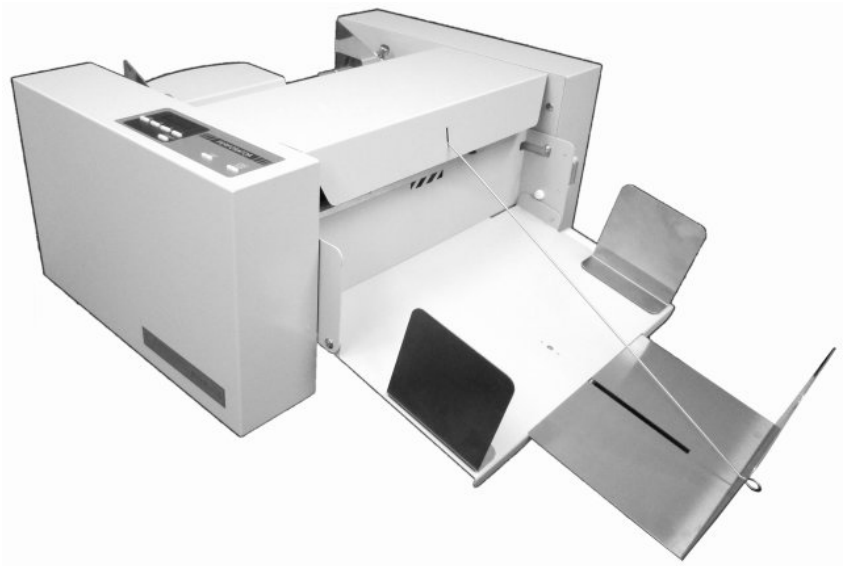
取扱説明書

自動ミシン目カッター　　きりとれ・・・・・・る



ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みください。また、いつでもお読みになれるよう保管場所を決めて、大切に保管してください。

●ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
●ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、危害や損害を未然に防止するためのものです。
●[安全上の注意]に使用されている絵表示の例。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。（左図の場合は高温注意）

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。（左図の場合は分解禁止）

●記号は行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）

安全上の注意

⚠ 警　告	
	アース接続してください。 漏電した場合、感電を防止します。
	この機器は５０Ｈｚと６０Ｈｚで別仕様です。周波数が仕様外の場合、火災・故障の恐れがあります。 交流１００Ｖで使用してください。電圧が高すぎたり低すぎたりする場合、火災・故障の恐れがあります。
	この機器の上に、物をのせないでください。機器内部に水・異物が入った場合火災・漏電の恐れがあります。
	電源コードの扱いには十分注意してください。 傷・破損・加工をしないでください。火災・感電の恐れがあります。 重量物をのせないでください。火災・感電の恐れがあります。 プラグやコードを無理に曲げないでください。火災・感電の恐れがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の恐れがあります。
	この機器のカバーは外さないでください。感電やケガの恐れがあります。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の恐れがあります。
	発熱していたり煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。すぐに電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そして販売店にご相談ください。
	電源コードが熱を持ったり、異臭がするなど異常があったらすぐに電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントからぬいてください。そして販売店にご相談ください。
	異物が機器に入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。
	雷が近づいてきたら、落雷による火災・故障を防ぐためコンセントを抜いてください。

⚠ 注　意	
	髪の毛・ネクタイ・ネックレスなどを駆動部にたらさないでください。けがの原因になります。
	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。
	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因になります。
	電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	本機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	連休等で、本機を使用しない時は安全のため必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

はじめに

ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みください。
この「取扱説明書」は、必要な時にいつでもお読みになれるように、保管場所を決めて大切に保管してください。
この製品は改良のために、仕様を変更する場合があります。このため、同一製品においても「取扱説明書」の記載内容が異なる場合がありますので、製品ごとの「取扱説明書」を混同して使用しないでください。

目次

１．　設置前の注意事項

１．１　設置場所の確認 ……6
１．２　搬入時の注意 ……6
１．３　付属品の種類・数量の確認 ……7

２．　製品各部の名称

２．１　外観 ……8
２．２　操作パネルシート部 ……9

３．　特に注意していただきたいこと

３．１　用語の定義
３．１．１　マーク解説 ……10
３．１．２　用語解説 ……10
３．２　特徴および使用目的 ……10
３．３　使用しないとき ……10
３．４　使用上の注意 ……10

４．　使用前の準備

４．１　付属品を取り付ける ……11

５．　使用方法

５．１　用紙のセット ……12
５．２　ミシン目カッターのセット ……13
５．３　排紙テーブルのセット ……17

５．４　ミシン目試し入れ …… 18
５．５　ミシン目の微調整 …… 19
５．５．１位置の微調整 …… 19
５．５．２平行度の微調整 …… 19
５．５．３印刷後の用紙を加工する場合 …… 20
５．６　ミシン目連続入れ …… 20
５．７　特殊機能
５．７．１ショート給紙モード
(小さな用紙を給紙する場合の特殊機能) …… 21
５．７．２ロング給紙モード
(スリップが多発する場合の特殊機能) …… 21

６．　ミシン目カッターの交換方法 …… 22

７．　カッターユニット追加方法（別売）
７．１　排紙テーブルの外し方 …… 23
７．２　カッターユニット、搬送ユニットの外し方 …… 23
７．３　搬送軸の外し方 …… 23
７．４　カッターユニット追加 …… 24

８．　厚紙用カッターユニット（別売）の取付操作方法
８．１　厚紙用カッターユニット（別売）の取付方法 …… 25
８．２　厚紙用カッターユニット（別売）の操作方法 …… 25
８．３　ロング給紙モード（スリップが多発する場合の特殊機能） …… 26
８．４　厚紙用セパレータへの交換方法 …… 26

９．　スリムカッターユニット（別売）
９．１　スリムカッターユニットの特徴 …… 27
９．２　スリムカッターユニットの取り付け方、外し方 …… 27
９．３　スリムカッターユニットの操作方法 …… 27
９．４　スリムカッターユニットの使用例 …… 27

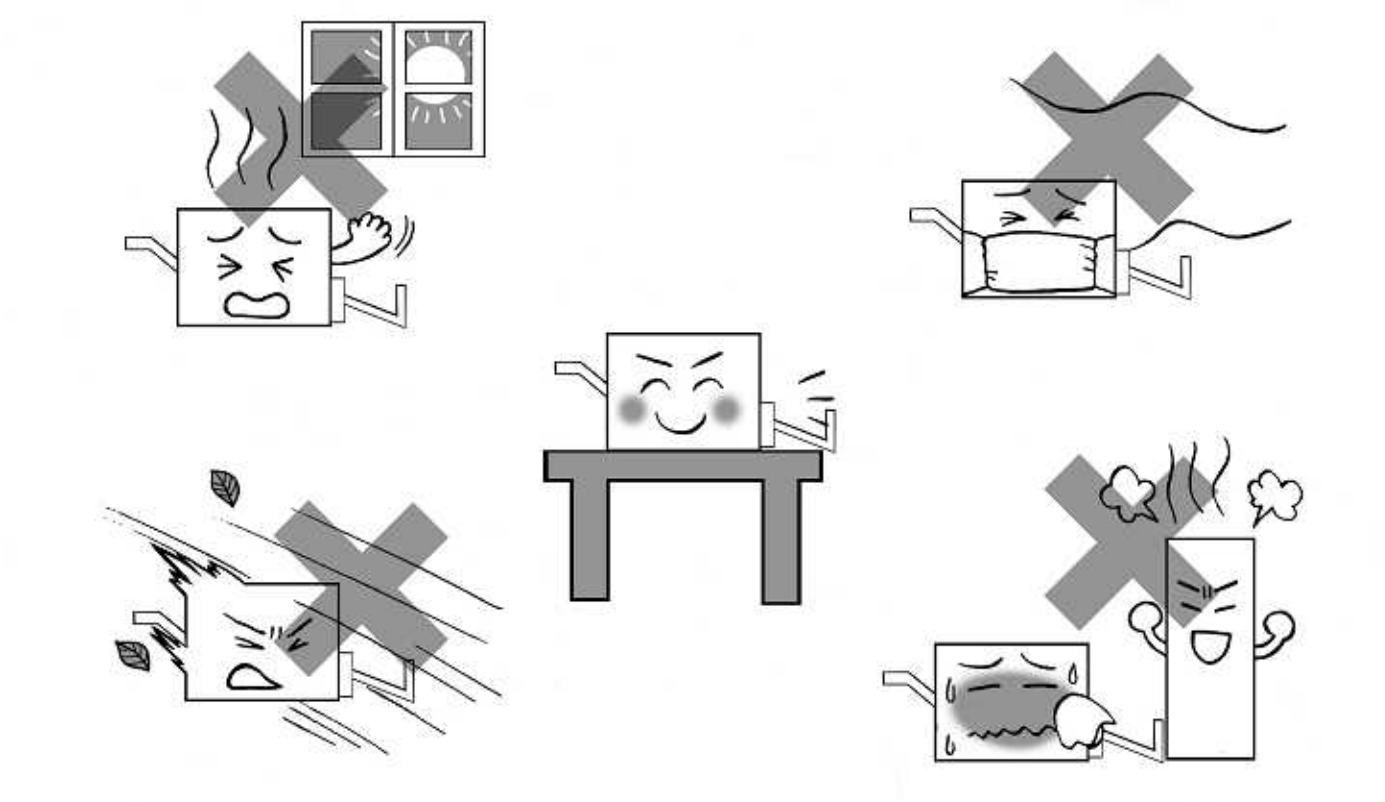
10.　切れ目カッター（別売）
10. 1　切れ目カッターの特徴 28
10. 2　切れ目カッターの交換方法 28
11.　保守・点検・消耗品
11. 1　点検・お手入れ時の注意事項 29
11. 2　日常のお手入れ 29
11. 3　消耗品について 29
11. 4　フォトセンサーの清掃について 30
11. 5　紙詰まり時の対処方法 30
11. 6　用紙セパレーター、給紙ゴムローラー、の交換について 31
12.　トラブル時の処理 32
13.　製品仕様 34
14.　オプション(別売部品)、消耗部品一覧 35
15.　移設または廃棄するとき
15. 1　移設
15. 1．1　旧設置場所からの撤去作業 36
15. 1．2　運搬 36
15. 1．3　移設先での設置 36
15. 2　廃棄 36

１．　設置前の注意事項

１．１　設置場所の確認

次の条件を満たした場所に設置してください。

・直射日光の当たる場所に設置しないでください。
・窓際は避けてください。
・湿気やほこりの多い場所は避けてください。
・風の当たるところ、熱を発生する機器付近での使用は避けてください。
・丈夫で水平な台又はテーブル上に設置してください。

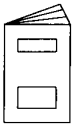


１．２　搬入時の注意

・衝撃や激しい振動が製品本体に加わらないようにていねいに取り扱ってください。
・　保護手袋をし、二人で底面四隅をしっかり持って運搬してください。

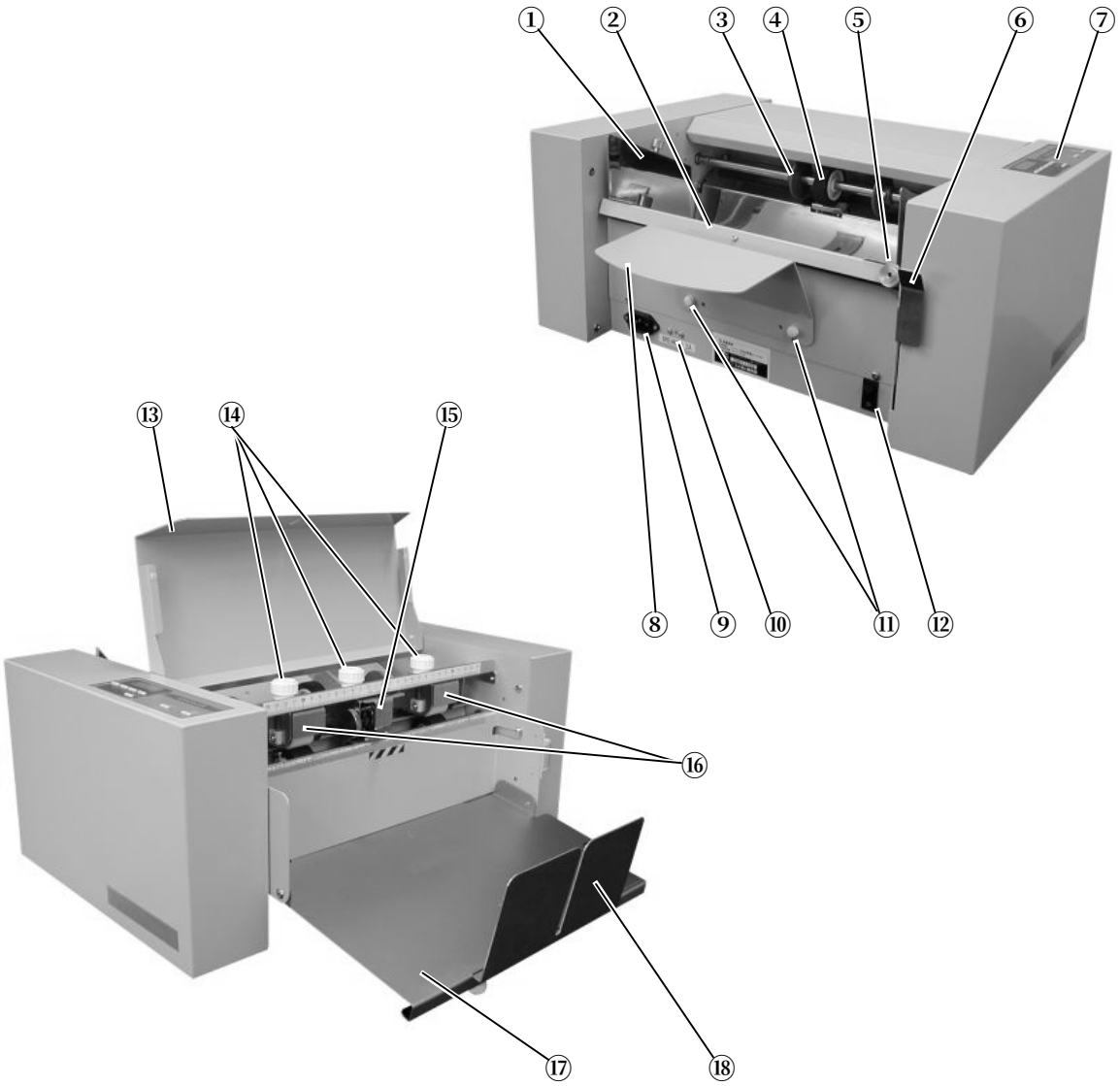
１．３　付属品の種類・数量の確認

開梱したら、付属品の確認をしてください。
万一不足していたらすぐに販売店に連絡してください。
また、保証書の記入と FAX 登録をお願いします。

付属品	個数	図
補助テーブル	1	
側面ガイド	2	
電源コード 注意：形状は異なる場合があります	1	
チルトユニット	1	
排紙ワイヤー	1	
取扱説明書	1	
簡易マニュアル	1	
ドライバー	1	

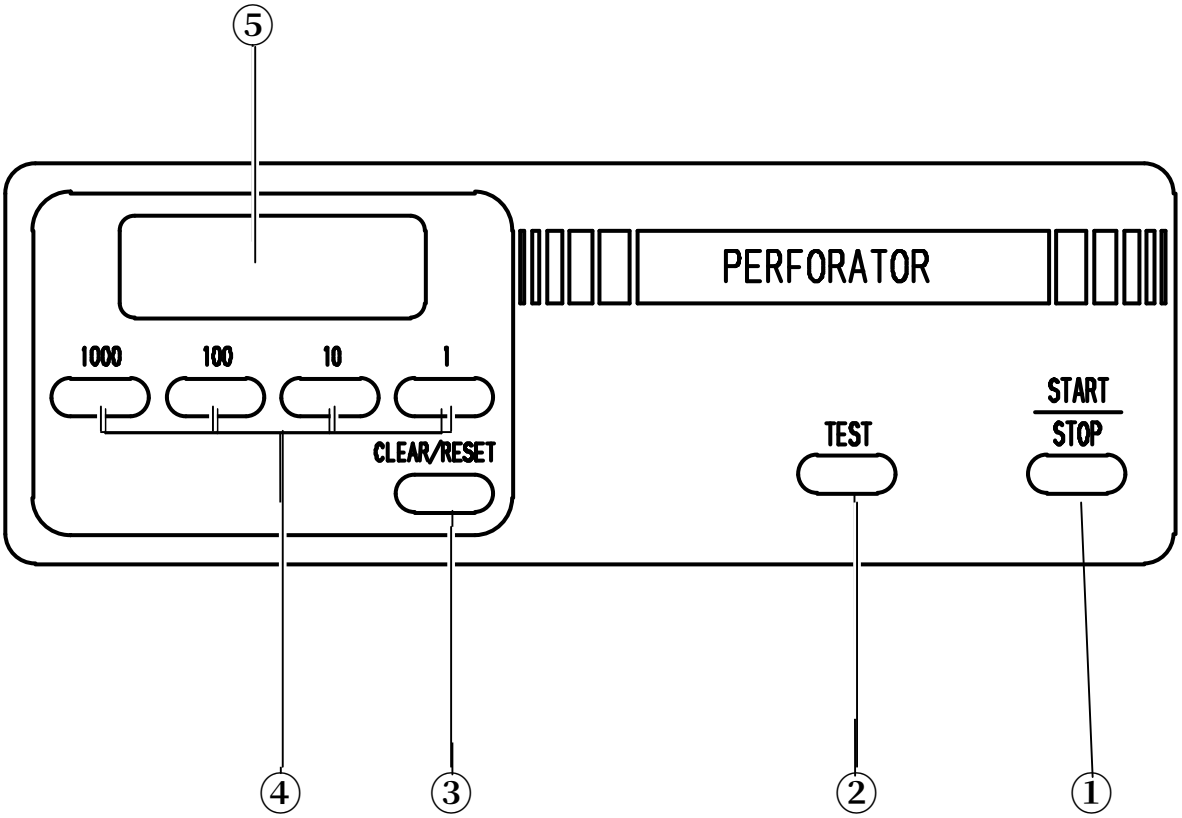
2．　製品各部の名称

2．1　外観



番号	名　称	はたらき	番号	名　称	はたらき
①	用紙ガイド	給紙時の曲りを防止	⑩	ブレーカ	過電流保護
②	給紙テーブル	用紙を載せる	⑪	取付けツマミ	補助テーブルを固定
③	補助ローラー	用紙の斜行を抑える	⑫	電源スイッチ	電源の入／切
④	給紙ローラー	用紙を 1 枚づつ送る	⑬	上カバー	メカ部の保護及び安全対策
⑤	斜行調整ツマミ	斜行発生時に修正	⑭	ツマミ	カッター/搬送ユニットを固定
⑥	給紙テーブル レバー	給紙テーブルを昇降させる	⑮	カッターユニット	ミシン目を加工する
⑦	操作パネル	枚数設定など	⑯	搬送ユニット	用紙を搬送する
⑧	補助テーブル	縦送り用紙を支える	⑰	排紙テーブル	排出された用紙を蓄える
⑨	インレット	電源コードを接続	⑱	排紙突当て	排出された用紙を揃える

２．２　操作パネルシート部



番号	名称	はたらき
①	スタート／ストップキー	スタートおよびストップする
②	テストキー	テスト給紙を１枚（カウンタに影響しないで１枚のみ給紙）
③	クリア／リセットキー	カウンタをクリア・エラーをリセット
④	数字キー	減算カウンタ時、枚数を入力
⑤	カウンタ	枚数を表示

３．　特に注意していただきたいこと

３．１　用語の定義

３．１．１　マーク解説

注意！　　注意していただきたいことです。
ポイント！　　知っていると便利なことです。

３．１．２　用語解説

名　称	解　説
給紙	用紙を１枚づつ送ること
排紙	用紙を１枚づつ排出すること
ジャム	用紙が機械内部で詰まること
重送	２枚以上重ねて給紙すること
スリップ	用紙が送り込まれないこと
ミシン目	用紙上に加工される点々状の切り込み
さばく	用紙同士が貼り付いている状態をはがすこと
斜行	用紙の端面に対して斜めにミシン目が入ること

３．２　特徴および使用目的

・操作が簡単です。
・プリセットカウンタ（枚数表示を繰り返す）により必要枚数をすばやくミシン目加工できます。
・用紙の断裁が曲がっていた場合および斜めにミシン目が入った時に曲がりを補正する機能として斜行調整ツマミがあります。
・マイクロミシン構造なので加工後に膨らみが殆どなく、シャープにミシン目を入れることができます。
・用紙の任意の位置にミシン目を入れることができます。

３．３　使用しないとき

・電源プラグをコンセントからはずしてください。

３．４　使用上の注意

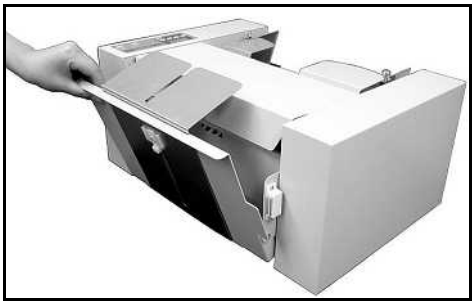
・上カバーの開閉は上カバーの折り曲げ部分をしっかり持って行ってください。
　指をはさまれる恐れがあります。
・特に重要な書類は事前にテスト送りをしてミシン目位置の確認をしてください。
・理由を問わず、用紙のミシン目位置ズレ、破損の補償はご容赦ください。

4．使用前の準備

4．1　付属品を取付ける

(1) 電源コードをインレットに差し込みます。

(2) 補助テーブルを取り付けます。
機械に付いている取付けツマミ（白）2ヶを一度外して再び固定します。



(3) 排紙テーブルを開きます。

(4) 電源コードをコンセントに差し込みます。

注意！

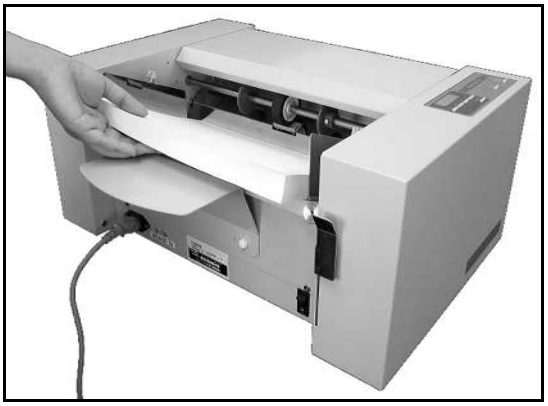
- 必ずほどいて使用してください。
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。
- 電源コードのアース線は必ず接地(アース)してください。
- 電源コードのプラグ形状は異なる場合があります。

(5) 電源スイッチをオンにします。

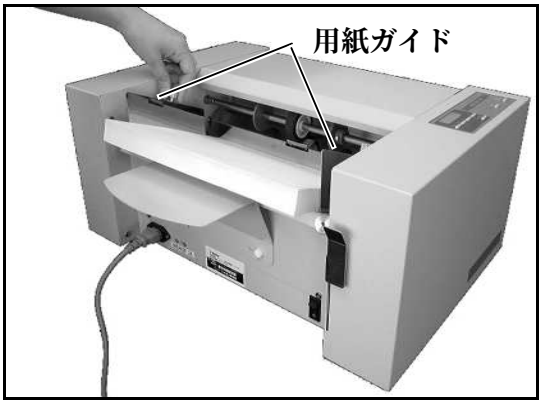
⚠ 警　告	
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の恐れがあります。
	電源コードのアース線は電源コンセントに挿入または接触させないでください。 火災･感電の原因になります。

5．使用方法

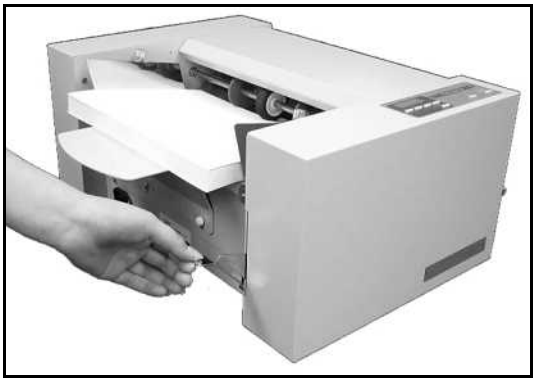
5．1　用紙のセット



(1) きれいに揃えて給紙テーブルに載せ、
奥まで充分に押し付けます。



(2) 左右の用紙ガイドを用紙の側面にピッタリと
押し付けて用紙ガイドツマミを締め付けます。

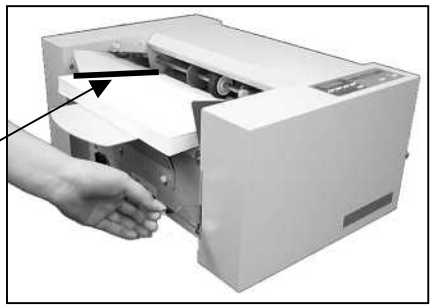


(3) 給紙テーブルレバーを下げて給紙テーブルを
上昇させます。

注意！

・給紙テーブルにセットする用紙は、上質 55kg (コピー用紙程度) で 300 枚までを目安にして下さい。
・印刷直後の用紙はジャム・重送・スリップ・用紙シワの原因になりますので必ず乾いてから使用してください。
・用紙ガイドとセットした用紙の間に隙間があると、ミシン目曲りの原因になります。

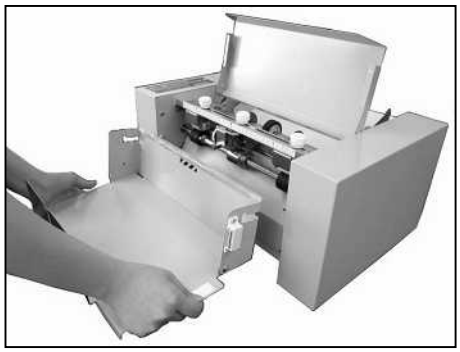
隙間の無いようにセットする



5．2 ミシン目カッターのセット

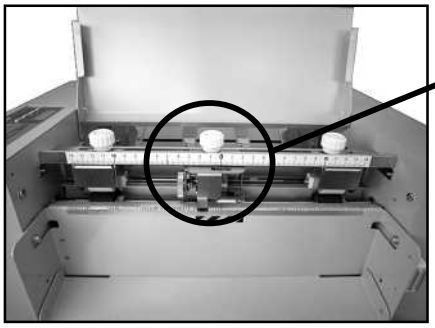
(1) 排紙テーブルを外します

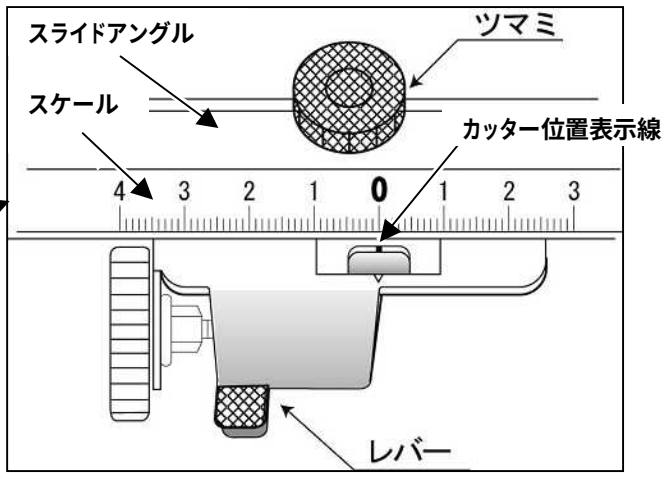
① 排紙テーブルを固定している取付ツマミ(白) 2 個を外します



② 排紙テーブルを両手で持って手前に引き出します。

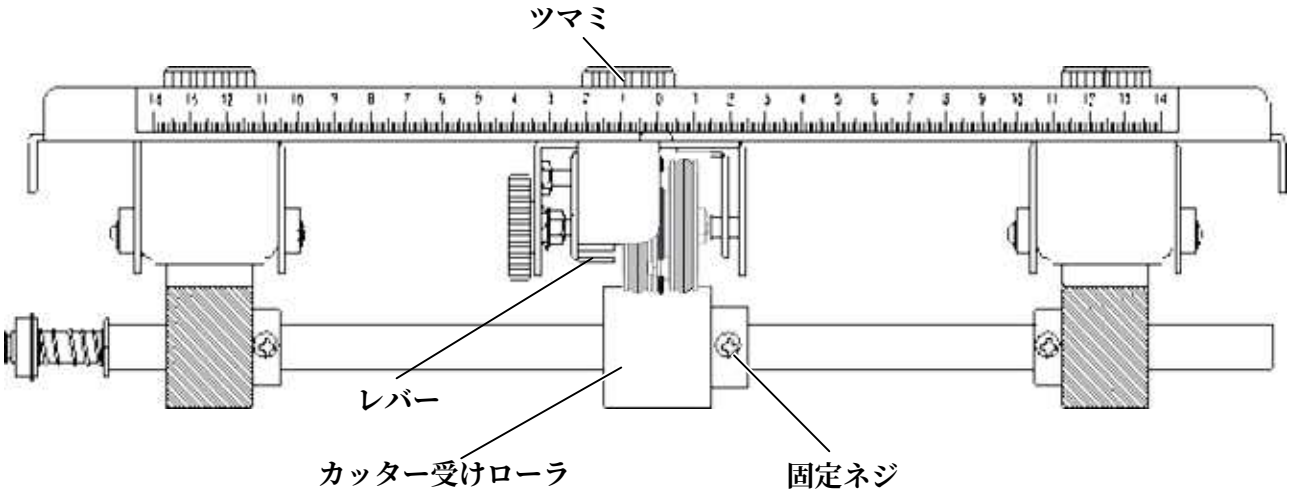
(2) ミシン目カッターの位置決めを行います。
ツマミをゆるめ、レバーを指ではさみながら左右に移動し、スケールを参考にミシン目カッターの位置決めを行います。





(3) **カッター受けローラーの位置決めを行います。**

カッター受けローラーの固定ネジをプラスドライバーでゆるめ、ミシン目カッターが
カッター受けローラーに正しく乗る位置にセットし、固定ネジを締めます。



注意！
・カッターユニットを固定する際、ユニット全体をスライドアングルに押し付ける(水平方向)ようにしてツマミを回して下さい。紙を真直ぐ送る為に必要な固定方法です。

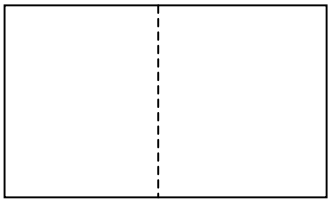
注意！
・ミシン目カッターは、常にカッター受けローラーに押し付けられるような構造になっていますので、**移動させる際は必ずカッターを浮かせた状態で行ってください。**（レバーを指ではさむと、カッターは受けローラーから浮きます。）

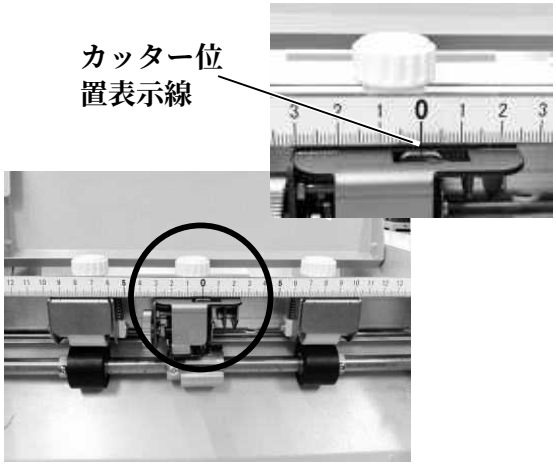
注意！
・固定する際、固定ネジが**搬送軸の平面部分(平らにカットされている部分)**に来るようにして、しっかり締めて固定してください。平面部以外で固定すると、ローラーがスムースに動かないようになる可能性があります。
・搬送軸上に固定するローラー類は全て、同一位置方向(搬送軸の平面部分)でネジを固定してください。

＜例＞

①〈用紙の中央にミシン目を入れる場合〉

⇒スケールの「0」に「カッター位置表示線」を合わせます。

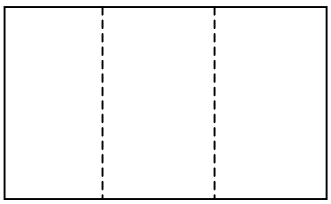


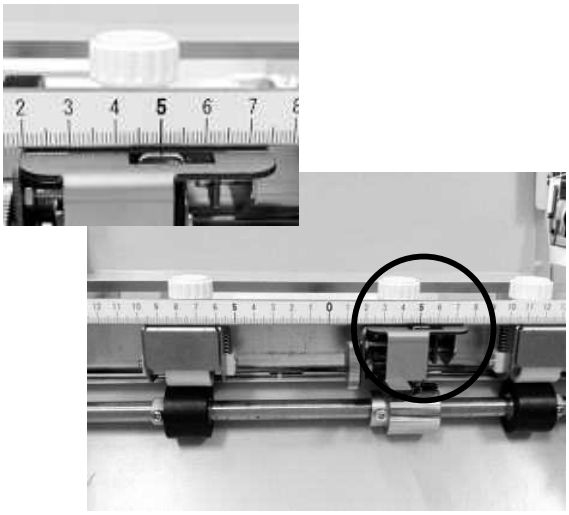


②〈A４用紙を３分の１ずつに分けるため２本のミシン目を入れる場合〉

⇒スケールの「5」の位置に「カッター位置表示線」を合わせます。

⇒1度ミシン加工した用紙を、再度用紙の向きを変えてセットし、2本目のミシン加工を行います。





ポイント！

1度で2本のミシン加工をしたい場合は、カッターユニットを1ユニット追加することが可能です。（別売）

P23 「7. カッターユニットの追加方法」を参考にカッターユニットとカッター受けローラーを追加して下さい。

ポイント！

スケールの表記はあくまで目安となります。

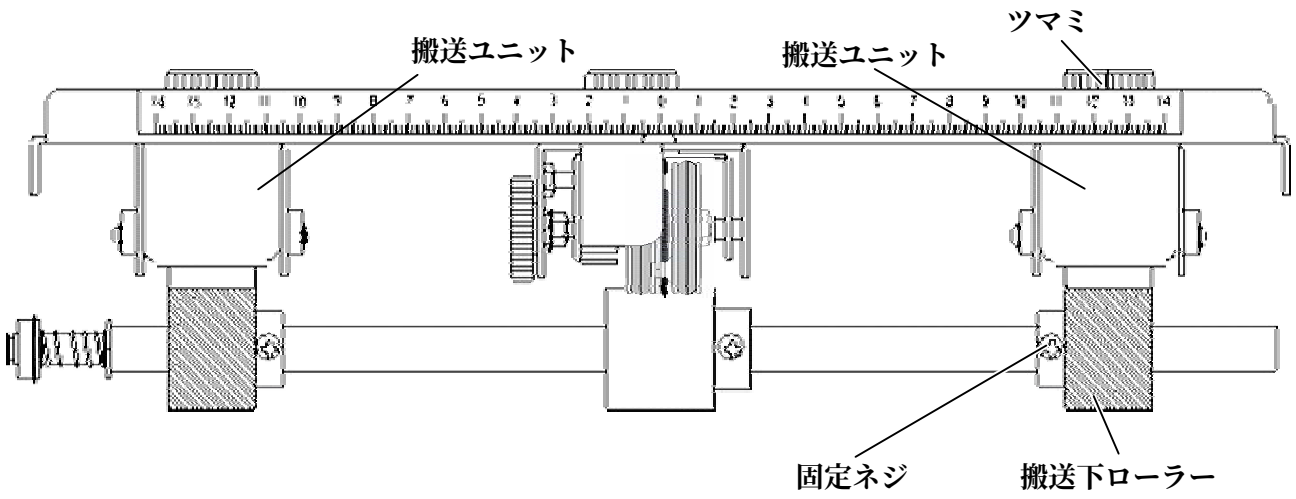
用紙のセット状態などにより「カッター位置表示線」を「0」の位置に合わせても用紙の中央からずれることがあります。その場合は、P19「5．5 ミシン目の微調整」を参考に調整を行ってください。

(4) **搬送ローラーの位置決めを行います。**

紙の両端を確実に押さえられる位置に、搬送ユニット、搬送下ローラーを左右それぞれセットします。

搬送下ローラーの固定ネジをゆるめ、スライドし固定ネジを締めて固定します。

搬送ユニットのツマミをゆるめ、スライドし搬送下ローラーとズレがないような位置で、搬送ユニットを固定します。



注意！

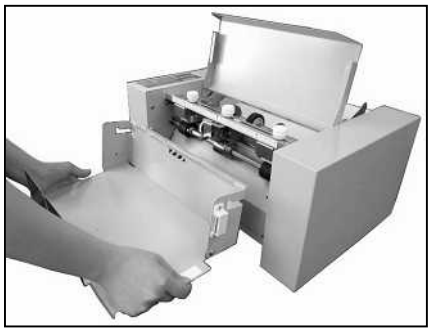
搬送ユニットを固定する際、ユニット全体をスライドアングルに押し付ける(水平方向)ようにしてツマミを回して下さい。紙を真直ぐ送る為に必要な固定方法です。

注意！

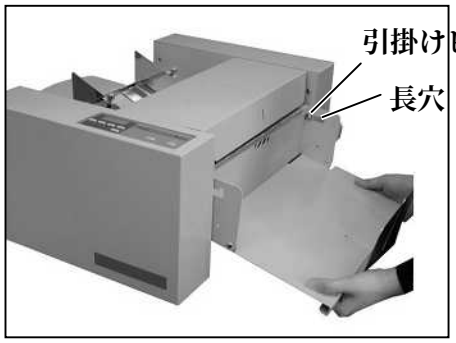
紙幅とミシン目位置によってはできない場合もありますが、なるべく搬送ユニットは搬送下ローラーとズレがないようにセットしてください。用紙搬送が、より安定します。

5．3　排紙テーブルのセット

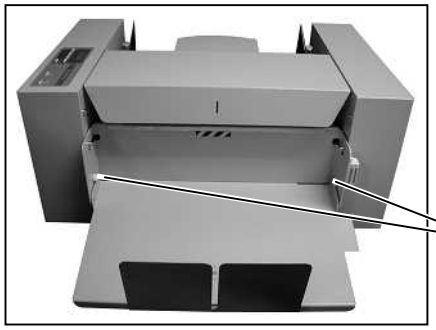
(1) 排紙テーブルのセット



①排紙テーブルを両手で持ちます。



②本体の引掛けピンに排紙テーブルの長穴部を合わせて奥まで差し込みます。



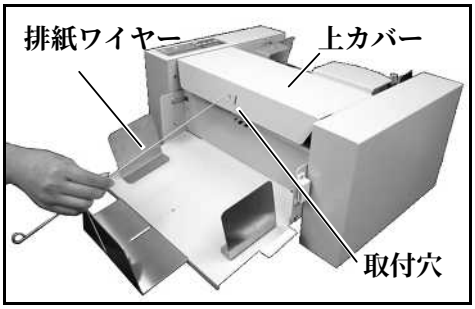
③取付けツマミを締めて排紙テーブルを固定します。

(2) 排紙突き当てのセット

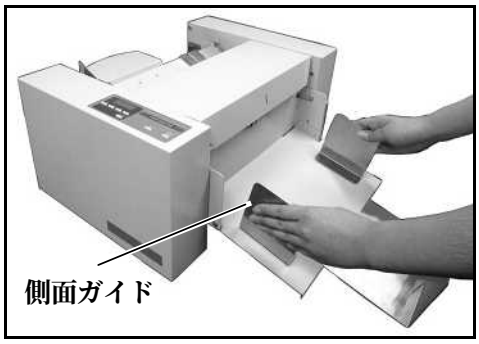
固定ツマミを緩めて排紙突き当てを用紙のサイズに合わせて前後にスライドさせます。
その後、固定ツマミを締めて排紙突き当てが動かない様に固定します。

(3) 排紙ワイヤーのセット

排紙ワイヤーのU字側を上カバーの取付穴に差し込みます。

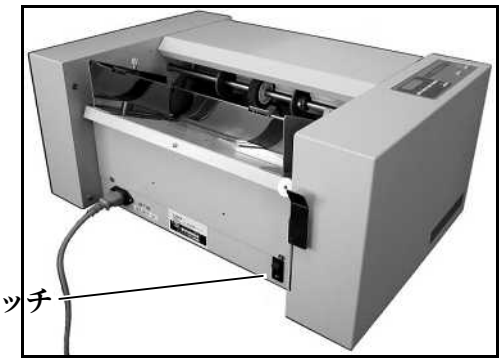


(4) 側面ガイドのセット
側面ガイドを用紙サイズに合わせて排紙テーブルの上にセットします。

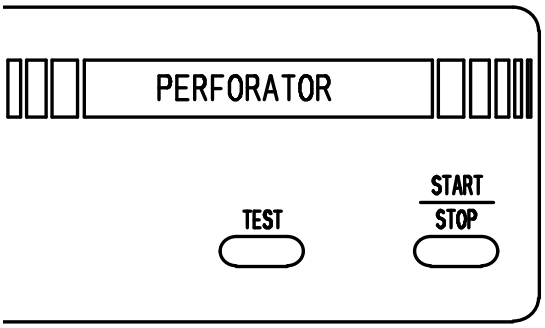


5．4 ミシン目 試し入れ

(1) 電源スイッチを入れます。



(2)「TEST キー」を押します。
用紙は 1 枚だけ給紙されます



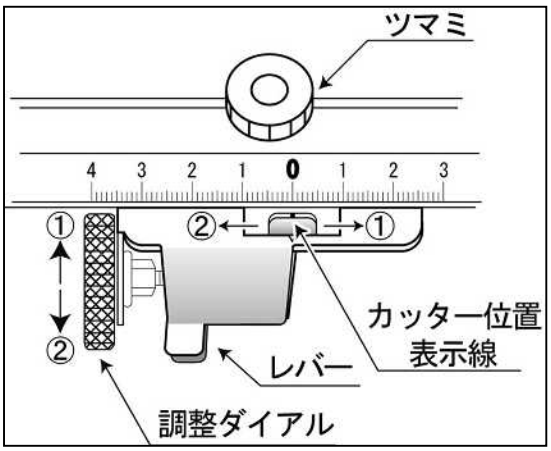
(3) ミシン目の入り具合をチェックします。

注意！
上カバーは閉じており且つ、排紙テーブルが正しく取り付けられていない限り、機械は作動しません。(安全対策のため)

5．5 ミシン目の微調整

5．5．1 位置の微調整

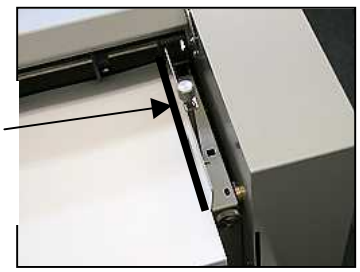
ミシン目が正しい位置に入っていない場合、大きくずれている時はユニット全体を移動させますが、わずかしかずれていない時は、ユニットはそのままでレバーを指ではさみながら「調整ダイアル」を回して調整します。
カッター位置表示線とスケールを参考に微調整を行ってください。

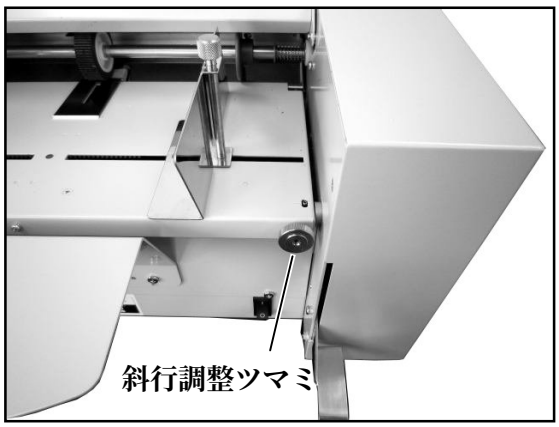


調整ダイアルを
①の方向に回すと、カッター位置は①の方向に移動します。
②の方向に回すと、カッター位置は②の方向に移動します。
およそ5mmの範囲で調整が可能です。

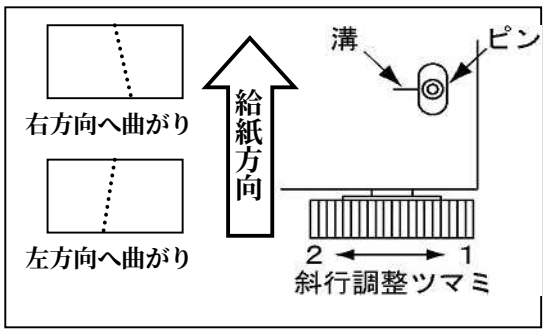
5．5．2 平行度の微調整

ミシン目が斜行する(斜めにずれる事)場合は、用紙をしっかり揃え、用紙ガイドと用紙の間に隙間がないか確認してください。





①斜行調整
用紙裁断時の曲がり、その他の要因でミシン目が曲がっている場合は、斜行調整ツマミで曲りを修整することができます。(基本位置はピンが溝のある中央にあります)

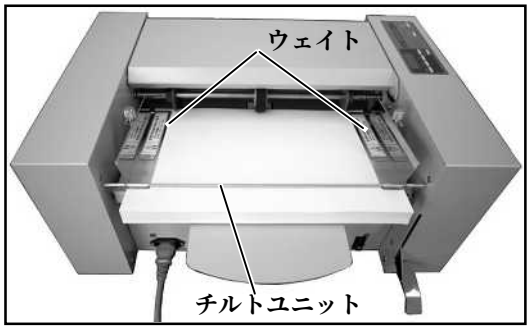


排紙された状態のまま見て、用紙が右へ曲がった場合は斜行調整ツマミを右方向1へ、左へ曲がった場合は左方向2へ回してください。

②チルトユニットの使用方法

ミシン目の斜行調整をしても斜行が安定しない場合は、用紙セット後に用紙の上にチルトユニットを載せます。

※ウェイト部分は給紙ガイドの内側いっぱいに広げてセットしてください。

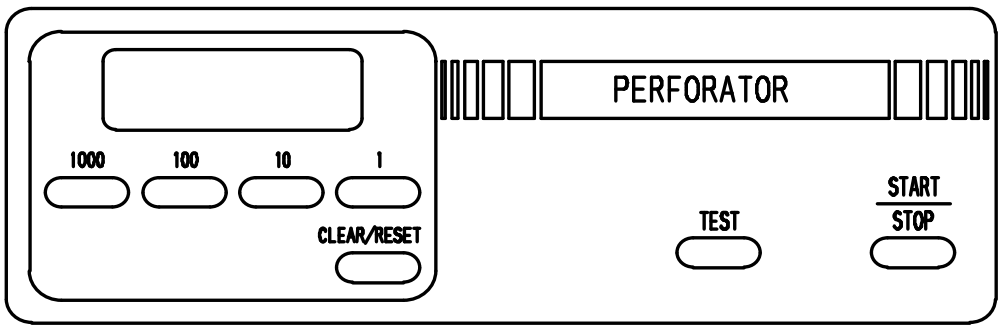


5．5．3 印刷後の用紙を加工する場合

印刷後の用紙をミシン目加工する際、用紙がカール(反っている)している場合は、カールをできる限り修正してセットして下さい。紙詰まり、斜行（斜めにずれる事）の原因となります。

できる限りカールを修正した上で、図のようにカールを下に向けて（用紙両端が下向きに反っている）用紙をセットし、チルトユニットのウエイト部分を用紙の両端に乗せてご使用下さい。

5．6 ミシン目 連続入れ



(1)「CLEAR/RESET」キーを押してカウンタを「0」にします。

(2) 用紙を載せ、「START/STOP」キーを押します。用紙が無くなるまで給紙します。
処理枚数がカウンターに表示されます。
指定した枚数をミシン目加工したい場合は、「数字」キーで入力後「START/STOP」キーを押します。　指定した枚数を処理後機械は自動停止します。

５．７　特殊機能

５．７．１　ショート給紙モード（小さな用紙を使用する場合の特殊機能）

A5 横送りなどの小さな用紙を給紙したときに連続して給紙してしまう現象が発生したときに使います。

・操作方法
①電源をオフにします。
②TEST キーを押しながら電源をオンにします。
カウンターに「Ｓｈ50」又は「Ｓｈ60」と表示されます。
50／60 の数字は機械のサイクルを表します。

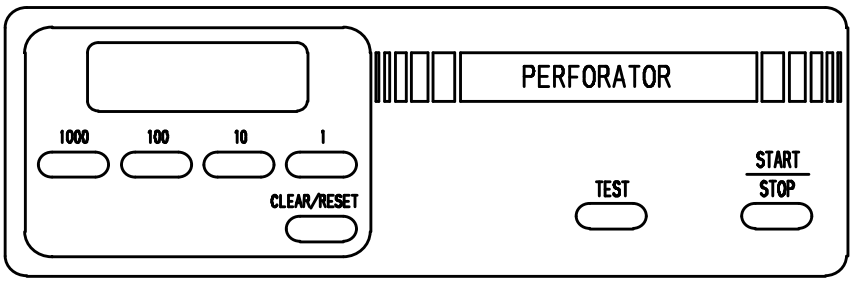
・電源を一度切って、再度電源を入れ直したときは、通常状態に戻ります。

５．７．２　ロング給紙モード（スリップが多発する場合の特殊機能）

特に厚手の用紙を給紙するときは、スリップが多発する場合があります。そのときにこの機能を使うとスリップの発生を減少させることができます。

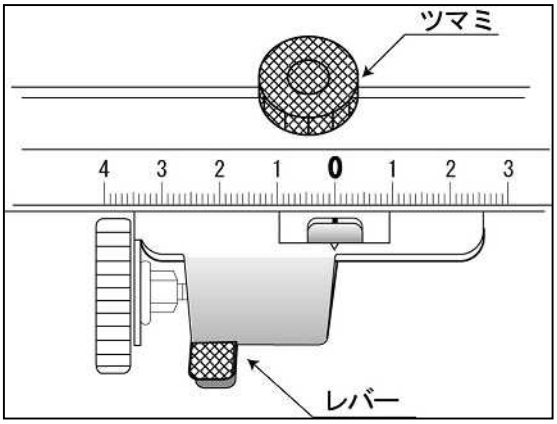
・操作方法
①電源をオフにします。
②START／STOP キーを押しながら電源をオンにします。
カウンターに「Lo50」又は「Lo60」と表示されます。
50／60 の数字は機械のサイクルを表します。

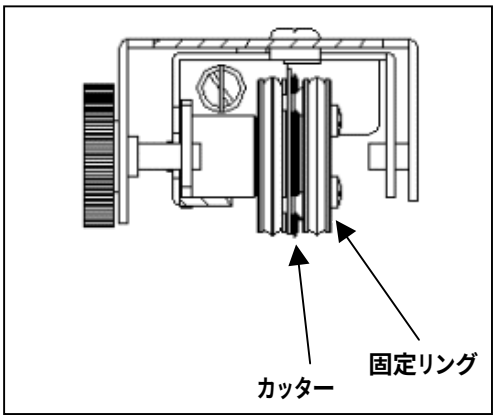
・電源を一度切って、再度電源を入れ直したときは、通常状態に戻ります。



6 ミシン目カッターの交換方法

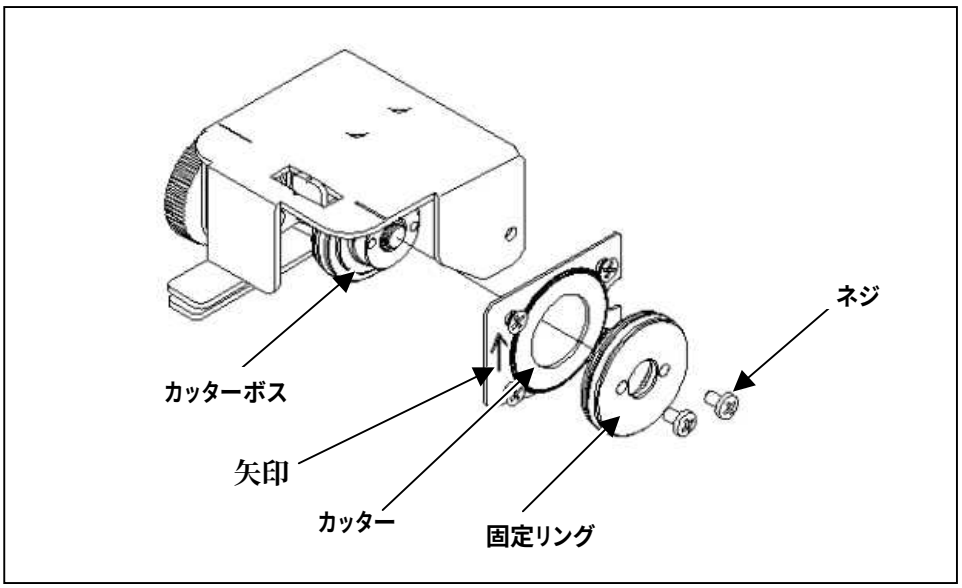
(1) ツマミを外し、レバーをつまみながらカッターユニットを外します。





(2) 固定リングが動かないように押さえ、ネジを外します。

(3) 固定リング、カッターの順に外します。



(4) カッターを交換し、逆の順番で取り付けます。

※ミシン目カッター（交換刃用）：注文番号 846-20

注意！

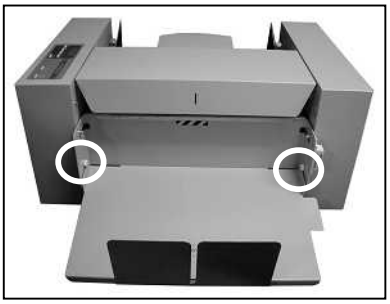
① カッターをセットする際、カッターの丸穴がカッターボスの段差に確実にはまり込むようにして下さい。
②カッターの**矢印が必ず上**になるようにして、セットしてください。
③カッターで手を切らないよう充分注意して作業を行ってください。
④カッターボスのネジ穴と固定リングのネジ穴を合わせてネジを締めます。

注意！

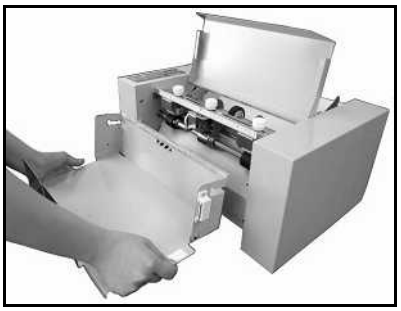
カッターを交換する際は刃で怪我をしない様、充分に注意してください。

7．カッターユニットの追加方法

7．1　排紙テーブルの外し方

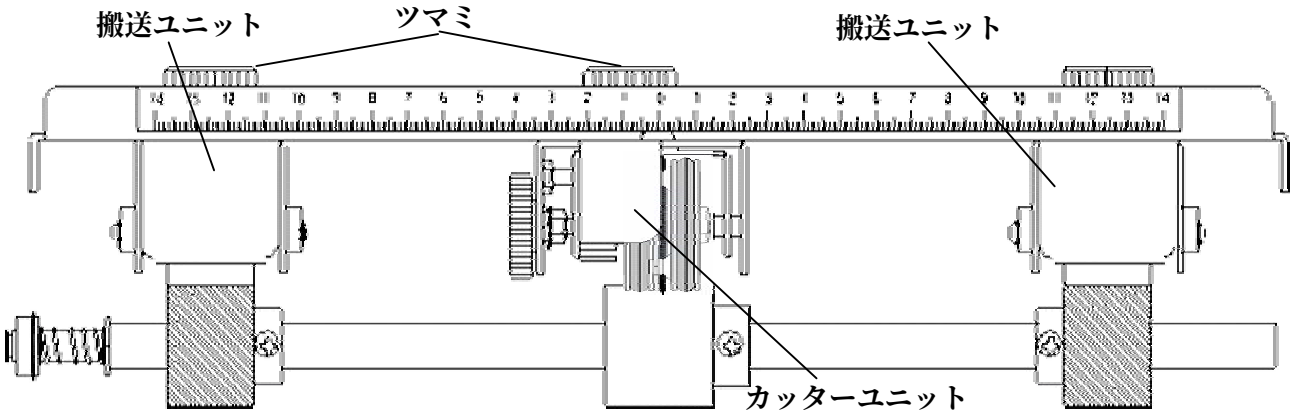


①排紙テーブルを固定している取付けツマミ(白)を外します。



②排紙テーブルを両手で持って手前に引き出します。

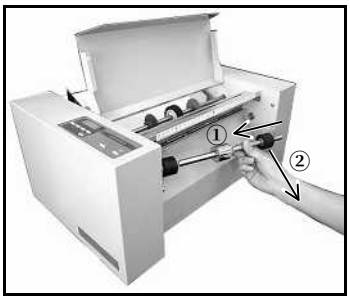
7．2　カッターユニット、搬送ユニットの外し方



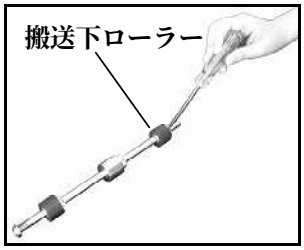
①ツマミをゆるめてカッターユニットを外します。
②ツマミをゆるめて搬送ユニット(2ヶ)を外します。

7．3　搬送軸の外し方

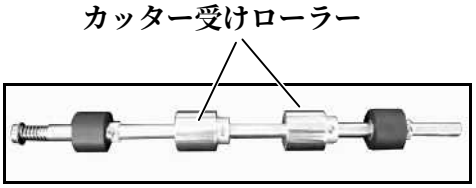
搬送軸を図中①の方向にスライドさせ、次に②の方向に引き出して本体から外します。



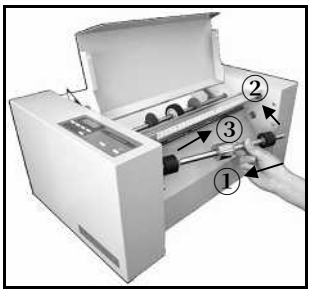
7．4　カッターユニット追加（別売）



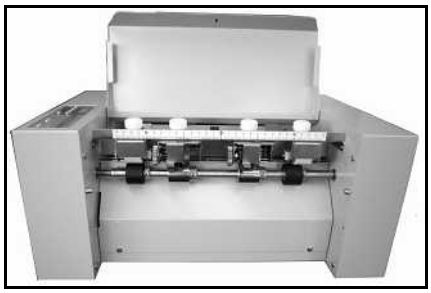
①搬送下ローラー（右側）の固定ネジを緩め外します。



②カッター受けローラーを追加し、搬送下ローラーを取り付けます。
（カッター受けローラーが2セット入った状態）



③搬送軸を本体に取り付けます。
（①→②→③の順）



④カッターユニットを本体に取り付けます。
（カッターユニットを増設した状態）

注意！
・カッターユニットを固定する際、ユニット全体をスライドアングルに押し付ける(水平方向)ようにしてツマミを回して下さい。紙を真直ぐ送る為に必要な固定方法です。

注意！
・ミシン目カッターは、常にカッター受けローラーに押し付けられるような構造になっていますので、**移動させる際は必ずカッターを浮かせた状態で行ってください。**（レバーを指ではさむと、カッターは受けローラーから浮きます。）

注意！
・固定する際、固定ネジが**搬送軸の平面部分（平らにカットされている部分）**に来るようにして、しっかり締めて固定してください。平面部以外で固定すると、ローラーがスムースに動かないようになる可能性があります。
・搬送軸上に固定するローラー類は全て、同一位置方向(搬送軸の平面部分)でネジを固定してください。

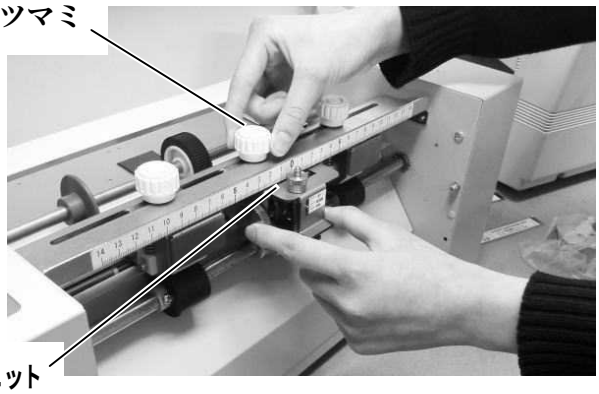
注意！
搬送ユニットを固定する際、ユニット全体をスライドアングルに押し付ける(水平方向)ようにしてツマミを回して下さい。紙を真直ぐ送る為に必要な固定方法です。

注意！
紙幅とミシン目位置によってはできない場合もありますが、なるべく搬送ユニットは搬送下ローラーとズレがないようにセットしてください。用紙搬送が、より安定します。

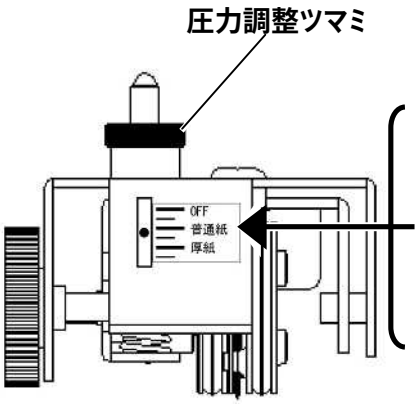
8． 厚紙用カッターユニット(別売)の取付操作方法

8．1 厚紙用カッターユニット(別売)の取付方法

ツマミを緩めカッターユニットを取り外し、
厚紙用カッターユニットを取り付けます。



8．2 厚紙用カッターユニット(別売)の操作方法



ＯＦＦ：カッターユニット（標準・厚紙・スリム）を取付けた状態でミシン目・切れ目を加工しない場合の調整位置です。

普通紙：普通紙を加工する場合の調整位置の目安です。

厚　紙：厚紙紙を加工する場合の調整位置の目安です。

圧力調整ツマミを回してミシン目カッターの圧を加減します。

・薄紙の場合→時計方向に回す(圧を弱く)

・厚紙の場合→反時計方向に回す(圧を強く)

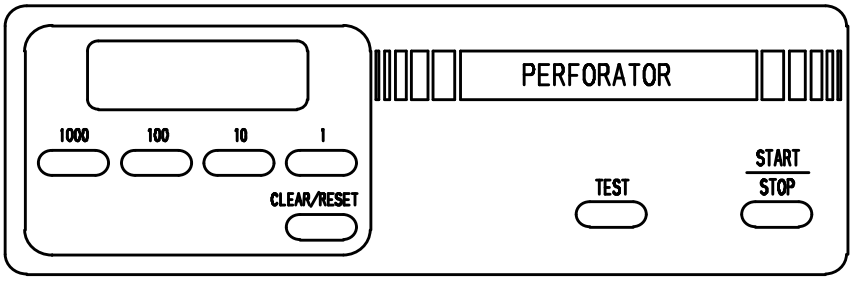
※ ミシン目の切れ具合を確認しながら圧力の強弱を調整してください。

8．3　ロング給紙モード（スリップが多発する場合の特殊機能）

特に厚手の用紙を給紙するときは、スリップが多発する場合があります。
そのときにこの機能を使うとスリップの発生を減少させることができます。

・操作方法
①電源をオフにします。
②START／STOP キーを押しながら電源をオンにします。

・電源を一度切って、再度電源を入れ直したときは、通常状態に戻ります。

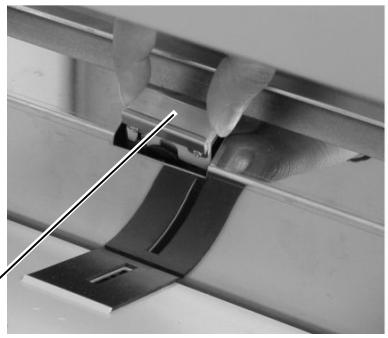


8．4　厚紙用セパレータへの交換方法

「11.6　用紙セパレーター・給紙ゴムローラー・の交換について」→P31 を参照

厚手の用紙を給紙するときに、給紙ローラーと用紙セパレーターの摩擦によって用紙にめくれなどの傷がつく場合があります。その際は、厚紙用セパレーターへ交換して下さい。
厚紙用セパレーターは赤いマーカーが入っています。

①上カバーを開き、給紙シャフトを外します。
②標準付属の用紙セパレーターを指でつまんで上方向に引き抜きます。
③厚紙用セパレーターを取り付けます。



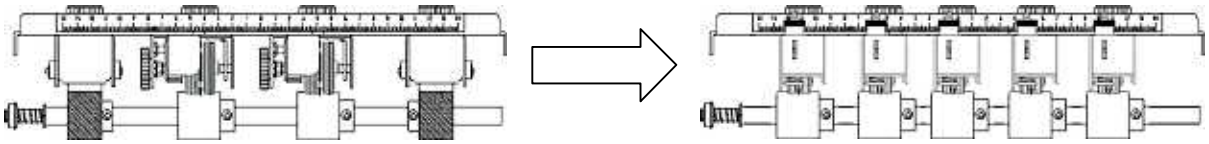
ポイント！
厚紙用セパレーターへ交換してもめくれ等が改善しない場合は給紙テーブル上の用紙を表裏ひっくり返してセットし直してください。

ポイント！
ミシン目に沿って切り離した部分がきれいに切り取れない(紙片が残る)場合は、ミシン目部分を表裏に 1 回づつ折って(折り目を手でしごくと更に効果あり)からゆっくり切り離してください。

9.スリムカッターユニット(別売)

9．1　スリムカッターユニットの特徴

スリムカッターユニットは最大 5 本（A4 用紙サイズ）のミシン目（切れ目カッター）を入れられます。
カッターユニット（厚紙ユニット）では対応できなかった複数のミシン目（切れ目）に対応できます。
※カッターユニットの本数・位置によっては標準付属の搬送ローラーを外してご使用下さい。



カッターユニット：最大 2 本　　スリムカッターユニット：最大 5 本

9．2　スリムカッターユニットの取り付け方、外し方

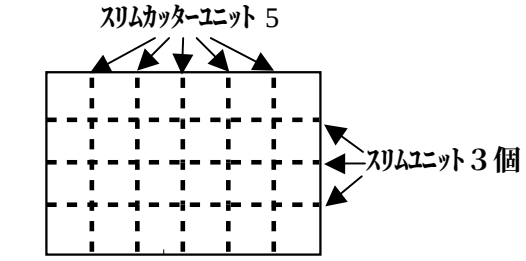
7．カッターユニットの追加方法　⇒P23 参照

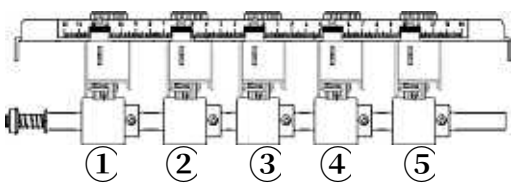
9．3　スリムカッターユニットの操作方法

8．2　厚紙用カッターユニット(別売)の操作方法　⇒P25 参照

9．4　スリムカッターユニットの使用例

スリムカッターユニットの特徴の最大 5 個で、A4 用紙でクーポンを作成した使用例

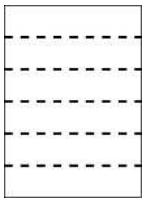




スリムカッターユニット

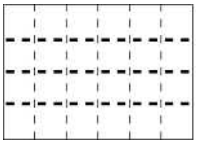
手順1．用紙にミシン目を5本入れます。

①～⑤のスリムカッターユニットを 5 個使用



手順2．用紙の向きを変え、ミシン目を3本入れます

①･⑤のスリムカッターユニットを OFF 設定
②･③･④のスリムカッターユニット 3 個を使用

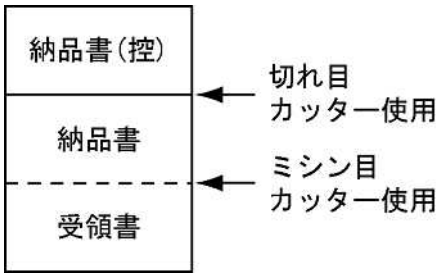


１０．切れ目カッター（別売）

１０．１　切れ目カッターの特徴

カッターユニット・厚紙カッターユニット・スリムカッターユニットのミシン目カッターを
切れ目カッターに付け替えることで、切れ目を入れることができます。

＜便利な使用例＞
図のような３枚綴りの伝票の、納品書(控)と納品書の間の
切れ目入れ、納品書と受領書の間のミシン目入れを同時に加工。
控え分はすぐに分離でき作業軽減になります。



１０．２　切れ目カッターの交換方法

６．ミシン目カッターの交換方法　⇒P22 参照

１１．　保守・点検・消耗品

１１．１　点検・お手入れ時の注意事項

⚠ 警　告	
	点検・手入れ時には電源プラグをコンセントから抜いてください。 けが・感電の恐れがあります。

１１．２　日常のお手入れ

・ローラー類に紙粉及び印刷物のインクが付着するとシワ、紙詰まり等トラブルの原因になるので定期的にゴムローラー用クリーナーと布切れを用いて清掃してください。

・紙粉及び印刷物のインク等が給紙ゴムローラーや用紙セパレーターに付着すると給紙性能が低下し、紙詰まりやスリップの原因になるのでゴムローラー用クリーナーを用いて清掃をしてください。

・外装部の汚れはアルコール又は清掃用クリーナーを使用してください。
溶剤系の洗浄液は変色の原因になるので使用しないでください。

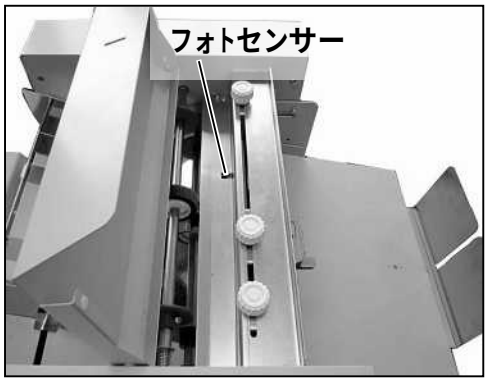
※ゴムローラー専用クリーナー　ＬＧ－ＣＬ５００　：注文コード　８４６－２４

１１．３　消耗品について

製品に使用されている給紙ゴムローラー、用紙セパレーター、ミシン目カッターは
消耗品です。交換が必要な場合は、お買い求め販売店までご連絡ください。

11．4　フォトセンサーの清掃について

フォトセンサーの清掃が簡単にできます。
フォトセンサー部に用紙の破片及び紙粉などが付着すると「エラー」が発生します。
その場合は、軟らかい綿棒等で、付着した用紙破片・紙粉などを取り除いてください。



注意！
フォトセンサーは傷付き易く、破損しやすい部品なので清掃時は充分に注意してください。

⚠　警　告

紙粉を取り除く際は、固い材質のご使用はお控えください。
センサー表面が傷つくことがあります。

11．5　紙詰まり時の対処方法

カッターユニット付近で紙詰まりが発生した場合、**以下の作業を行ってから詰まった用紙を取り除いてください。**

①部品を外す。
7．1　排紙テーブルの外し方
7．2　カッターユニット、搬送ユニットの外し方
7．3　搬送軸の外し方
⇒P23 参照

②外した部品を元に戻して使用可能状態にします。

詰まった用紙を取り出す

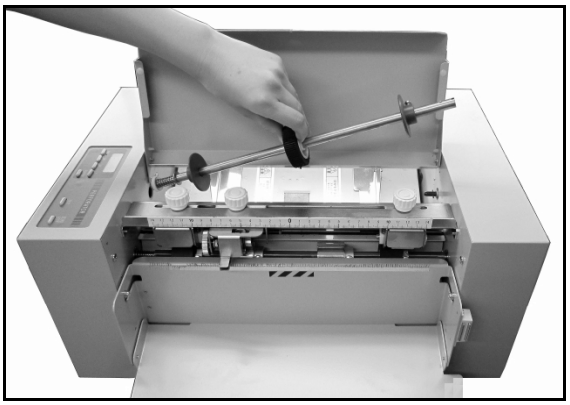
11．6　用紙セパレーター･給紙ゴムローラー･の交換について

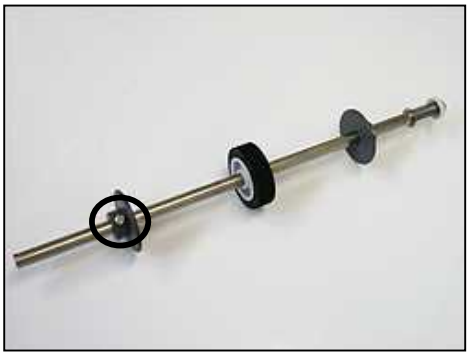
給紙ゴムローラー、用紙セパレーター、を交換する際は、下記の要領で取外し交換を行ってください。

・給紙軸を外して給紙ゴムローラーを交換します。

・給紙軸を外して用紙セパレーターを交換します。

※これらの部品はご購入の販売店へご発注ください。

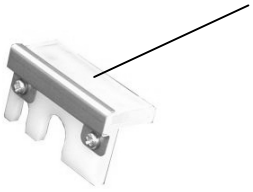


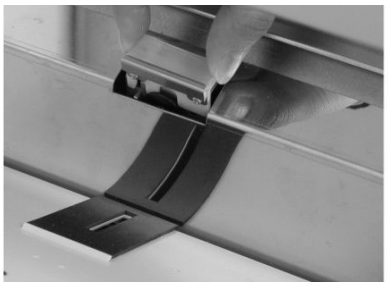


ネジを取り、補助ローラーを外します。

給紙ゴムローラーを交換します。

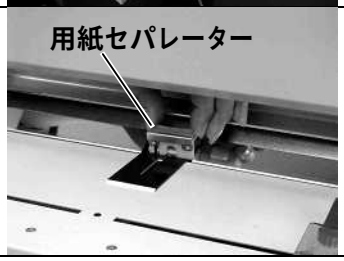
用紙セパレーター





用紙セパレーター（樹脂付）の両端を持ち、
引き抜きます。取付は逆の要領で行います

12. トラブル時の処理

<table>
<tr><th>現 象</th><th colspan="3">処 置</th></tr>
<tr><td rowspan="6">給紙スリップ</td><td rowspan="2">・積載量を少なく（10 ㎜以下）する</td><td>○</td><td> </td></tr>
<tr><td>×</td><td> </td></tr>
<tr><td>・給紙テーブル（給紙ガイド部を摘んで）を軽く持ち上げる(紙質の重い用紙の場合、給紙テーブルが所定の位置より下に下がってしまう場合があります。給紙ゴムローラーとの接触面を広くし、スリップを軽減する効果があります)</td><td colspan="2"> </td></tr>
<tr><td>・厚紙を行う場合は厚紙用セパレーター（別売り）に付け替えてください。（表面のグリップ力を低減して、スリップを減少させる）</td><td colspan="2" rowspan="2">  </td></tr>
<tr><td>・用紙セパレーターを清掃、または交換する</td></tr>
<tr><td>・給紙ゴムローラーを清掃、または交換する

・ロング給紙モードに切り替える。
①電源をオフにします。
②START／STOP キーを押しながら電源をオンにします。</td><td colspan="2"> </td></tr>
<tr><td rowspan="8">紙詰まりが多発する</td><td colspan="3">・カッターユニットを機械本体から取り外し、再度確実に取り付ける。⇒P13 参照</td></tr>
<tr><td colspan="3">・ミシン目カッター部の位置調整を行う⇒P13 参照</td></tr>
<tr><td colspan="3">・搬送（上/下）ローラー部（用紙に対しての位置・上/下のズレ）の位置調整を行う⇒P13 参照</td></tr>
<tr><td colspan="3">・用紙がカールしている場合は矯正する</td></tr>
<tr><td colspan="3">・積載量を少なく（10 ㎜以下）する</td></tr>
<tr><td colspan="3">・仕様内の用紙を使用する</td></tr>
<tr><td colspan="3">・給紙ゴムローラー、用紙セパレーターを清掃、または交換する⇒29 参照</td></tr>
<tr><td colspan="3">・用紙通過部に紙片が詰まっている場合は取り除く</td></tr>
<tr><td rowspan="6">重送が多発する</td><td colspan="3">・用紙セパレーターを清掃する</td></tr>
<tr><td colspan="3">・ブレーキゴムが汚れている場合は清掃する</td></tr>
<tr><td colspan="3">・仕様外の用紙を使用している場合は仕様内の用紙を使用する</td></tr>
<tr><td colspan="3">・用紙のカールが大きすぎる場合は矯正する</td></tr>
<tr><td colspan="3">・用紙はよくさばいて再セットする</td></tr>
<tr><td colspan="3">・50Hzの機械を60Hz地域で使用している場合は周波数設定を変更する</td></tr>
</table>

排紙が不揃い	・排紙ワイヤーを取り付ける
	・側面ガイドを用紙に合った位置に取り付ける
	・排紙突当てを用紙に合った位置に移動する
	・用紙がカールしている場合は矯正する
ミシン目の斜行	・斜行調整ツマミで調整する
	・用紙ガイドと用紙の接触をタイトにする (隙間をなくす)
	・補助ローラーの位置を用紙の端に移動する
	・カッターユニット及び搬送ユニットを固定する際、ユニット全体をスライドアングルに押し付ける(水平方向)様にしてツマミを締め付けて下さい。紙を真直ぐ送る為に必要な固定方法です。
	・搬送ユニット、搬送下ローラーを用紙の端に移動する
	・積載量を少なく (10 ㎜以下) する
	・用紙がカールしている場合は矯正する
	・チルトユニットを使用する⇒P20 参照
ローラー跡	・カッターユニットのゴムリングを清掃、または交換する
	・搬送ユニット、搬送下ローラーを清掃または交換する
用紙先端のめくれ (剥がれ)	・8．4　厚紙用セパレーターへの交換方法を参照にしてセパレーターを厚紙用に交換する⇒P26 参照
	・給紙テーブル上の用紙を表裏ひっくり返してセットし直す
ミシン目がきれいに切り離せない	・切り取った部分に紙片が残る場合は、ミシン目部分を表裏に 1 回づつ折って(折り目を手でしごくと更に効果あり)からゆっくり切り離す
TEST または START/STOP を押しても機械が動かない	・電源コードの差込みを確認する
	・電源スイッチ ON を確認する
	・給紙テーブルレバーが上がっている場合は下げる
	・上カバーを閉じる
	・排紙テーブルを正しく取り付ける

13. 製品仕様

用紙質量	64～81.4ｇ／㎡　（55～70kg/四六判連量） 64～184ｇ／㎡（55～158kg）・・・厚紙用/スリムカッターユニット使用時（別売）
紙質	上質紙（オフセットペーパー） ケント紙、上質紙特厚口、官製はがき（別売の厚紙用カッターユニット使用時）
用紙サイズ	A4～A5
処理速度	7,000 枚／時　117 枚／分　（A4 横通しの場合）
給紙積載量	300 枚
ミシン目ピッチ	0.35mm（切れる長さ）×0.20mm（残る長さ） 2mm（切れる長さ）×1mm（残る長さ）・・・厚紙用ミシン目カッター（別売）
加工本数	標準 1 本（オプションを追加することで最大 5 本まで加工可）
カウンター	４桁デジタル表示／加算・減算（オートリピート機能付）
機械寸法	使用時：W800～640×D510×H240mm（用紙サイズによって、排紙テーブルを調整） 収納時：W470×D510×H250mm
機械質量	19ｋｇ
消費電力	62W／50 Hz・86W／60 Hz

14. オプション(別売部品)、消耗部品一覧

注文番号	名称	型番	備考
846-19	カッターユニット (追加刃用)	LF-CU	ミシン目加工を 2 本同時に入れる場合に必要となります。
846-20	ミシン目カッター (交換刃用)	LF-MC	ミシン刃の切れ味が悪くなってきたら交換してください。 0.35mm×0.2mmピッチのマイクロ刃
846-22	厚紙用カッターユニット	LF-ACU	厚紙にミシン加工する場合必要となります。 90kg～158kg までの用紙に対応します。
846-23	厚紙用ミシン目カッター (交換刃用)	LF-AMC	厚紙用カッターユニットの刃の切れ味が悪くなってきたら交換してください。 2mm×1mmピッチの刃となります。
846-29	スリムカッターユニット	LP-SCU	複数のミシン目･切れ目を入れる場合に必要となります。最大 5 本のミシン目が可能です。 「スリムカッターユニット」 ⇒p27 参照
846-28	切れ目カッター	LP-KC	切れ目を入れる交換刃です。 「10. 切れ目カッター」 ⇒p28 参照
846-27	きりとれーる ゴムローラーセット	LP-R1	給紙スリップ、2 枚送りなど給紙状況が悪くなってきたら交換してください。 給紙ゴムローラー、用紙セパレーターはセットで交換するようにしてください。
846-24	ゴムローラー専用クリーナー	LG-CL500	搬送ローラー、給紙ゴムローラー、用紙セパレーターに付着した紙粉、インクなどを清掃する際にご使用ください。

15. 移設または廃棄するとき

15.1 移設

15.1.1 旧設置場所からの撤去作業

・電源スイッチを切る
・電源プラグをコンセントから抜きとる
・排紙テーブルを閉じる

15.1.2 運搬

・取り外した部品や付属品、取扱説明書を一緒に運ぶ。
・強い振動や衝撃を与えないようにする。
・保護手袋をし、底面四隅をしっかり持って運搬する。

15.1.3 移設先での設置

・新設の場所と同様、すべての作業を行ってください。
・旧設置場所と電源周波数が異なる場合は、使用できません。
周波数設定が必要になります。お買い求めの販売店までご連絡ください。

15.2 廃棄

廃棄する際は、各地方自治体の政令に従い産業廃棄物処理業者に依頼するなど、
適切な処理をしてください。

メモ

メモ

取扱説明書

ミシン目加工機　きりとれ・・・・・・る

修理･その他ご不明な点については、お買い求めの販売店もしくはお客様相談室へ
ご連絡ください。

お客様相談室
〒164－0003　東京都中野区東中野 2 丁目 6 番 11 号
TEL　フリーダイヤル　0120－074416
FAX　フリーダイヤル　0120－402539

株式会社 ライオン事務器

本　　社	〒164-0003	東京都中野区東中野 2 丁目 6 番 11 号	TEL03-3369-1111
東京本店	〒103-0004	東京都中央区東日本橋 2 丁目 24 番 14 号	TEL03-3865-1211
大阪本店	〒577-0003	大阪府東大阪市長田中 3 丁目 100	TEL06-6747-5681